総括　永野　博　独立行政法人科学技術振興機構理事

私は理事と同時に、先ほど、センターの内容の話をされました馬場センター長のもとで上席フェローとして、そちらの方の仕事もしておりますので、閉会のあいさつをさせていただくことになりました。

きょうは足元の悪い中、こういう会を催しましたところ、こんなにたくさんの方に来ていただき、しかも最後まで、国連大学のこの会場が一杯になっているというのは、ふだんは余り見られないことで、大変ありがたいと思っております。

今回は中国側から非常にたくさんの重要な方々に来ていただきました。国家自然科学基金委員会の陳主任、東京の大使館から阮参事官、科学技術部の方からは科学技術促進発展研究センター、信息研究所、中国科学院からは科学院本体と科学技術政策・管理科学研究所、それから中国科学技術協会、更に先ほどお話しいただきました東軟集団有限公司から、それぞれトップの方に来ていただきました。初めはいろいろ声をかけてみて、本当にどのぐらいの方が来てくださるのかなあと思いましたけれども、実はすべてのところから来ていただきまして、大変うれしく思っております。それも期待の大きさの表れかなあというふうに考えております。

日本側からは、松田科学技術政策担当大臣、それから文部科学省、科学技術政策研究所、政策研究大学院大学といったところからいらしていただきまして、大変ありがたく思っております。また、アドバイザリー委員会ということで、有馬委員長、山岡ＪＵＫＩ会長、角南先生に出席していただきました。更に今回は、財団法人日中経済協会から強力な後援をいただきまして、たくさんのところに呼びかけていただきましたことも、今後のセンターの事業を発展させるためには大変ありがたいことだというふうに思っております。

なぜ中国かということを、時々聞かれることもあるのですが、実は先週、私はフィンランドに行って、フィンランド国立研究開発基金に行きましたら、幾つかプログラムを見ていたところ、ロシアプログラムというのとインドプログラムというのがあって、やはり聞いてみますと、選択と集中というか、そういう、大事だと思ったところとやるんだというふうに言っておりまして、それを聞いて、科学技術振興機構が、この中国総合研究センターをスタートするというのも、これはそれなりに、国家百年の計とは申しませんが、いろいろな観点から、時宜を得たものだというふうに、自信を深めた次第でございます。どういうことができるのかということでありますが、きょうのお話の中でもたくさんのアイデアをいただきましたので、そういうことも参考にしながら、決意を新たにして、心を引き締めてスタートをしたいというふうに思っております。また、最後ですが、通訳の方には、大変ありがとうございました。非常に聞きやすく、参加した人たちも喜んでいると思いま

す。本当にきょうは遅くまで、皆様、いらっしゃっていただきまして、ありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。これを持ちまして閉会のあいさつとさせていただきます。